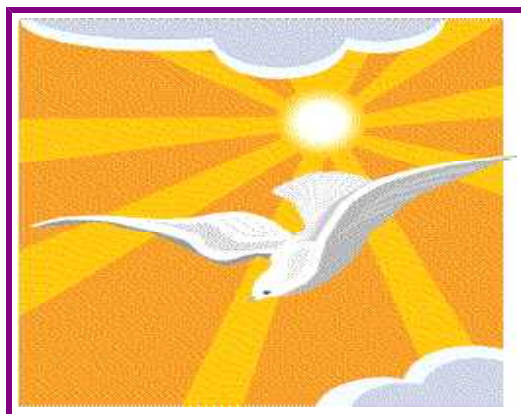


めぐみイエス・キリスト教会

2020年6月7日(日)第一主日礼拝
週報「通算第509号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(各家庭にて)	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝※中止	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年6月7日 第一主日礼拝 午前10時

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌361「栄えの王にます主の」 p. 578

【交読文】 No.56 ローマ人への手紙第12章 p. 924

【賛美Ⅱ】 新聖歌420「雨を降り注ぎ」 p. 676

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.5 「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き2章5節～13節(2017新約p. 234上段)

【礼拝説教】 《集まって来た人々》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

■ **パルテヤ人** 改宗者あるいは離散したユダヤ人であったと思われる。パルテヤはペルシヤ帝国の一部分で、カスピ海の南東にあった。

■ **メジヤ人** メディヤの住人のこと。メディヤにはユダヤ人のディアスポラ(離散した人々)が住んでいた。

■ **エラム人** セムの子孫と言われている。

■ **メソポタミヤ** 「川と川に挟まれた地」という意味。ここではヨルダン川東方を指す漠然とした表現のようである。

■ **ユダヤ** ユダヤはパレスチナ南端に位置するが、この名称は全パレスチナを指していると思われる。

■ **カパドキヤ** 小アジアの東部、ポントの南、ガラテヤの東、アルメニヤの西に位置する高原で、新約時代にはローマの属州の一つであった。

■ **ポント** 「海」という意味。小アジア北東部の地域を指す呼称として用いられるが、元来は黒海を指す用語であった。アクラはポント出身である。

■ **アジア** ローマの属州でいわゆる総督管下のアジア。首都はエペソ。

■ **フルギヤ** 小アジア中央部。ハリス川南西の広い肥沃な山岳地帯。新約時代はアジア州に含まれ、コロサイ、ラオデキヤ等がこの地域にある。

■ **パンフリヤ** 小アジア中央の南岸にあり、西はルキヤ、北はピシデヤ、東はキリキヤに囲まれた地方。

■ **クレネ人** 古代ギリシヤ人が建設した、北アフリカのリビヤの海岸都市。イエスの十字架を無理に負わされたシモンは、クレネ出身のユダヤ人。

■ **リビヤ** 北アフリカのエジプト以西全体を指す。その地方(マルマリカ近辺)には、ユダヤ人の離散民が居住した場所も少なくなかった。

■ **クレテ人** エーゲ海の南限にある地中海上の島クレテの住民を指す。

■ **アラビヤ人** アラビヤの住民。おもとして遊牧民であったと考えられる。新約時代には、アラビヤ人の中にもユダヤ教に改宗した者がいた。

●ポイント1. イエス様の弟子たちへの命令そのⅠ「ガリラヤにおいて」

※マタイの福音書28章18節～20節 (新約p.64下段)

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「私には天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 私があなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

●ポイント2. イエス様の弟子たちへの命令そのⅡ「オリーブ山において」

※マルコの福音書16章15節～18節 (新約p.105下段)

16:15 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、私の名によって悪霊を追い出し、新しい言葉で語り、

16:18 その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

◎先週のメッセージの概要【聖霊の降られた日】

《その頃、マルコの家の上の屋根には、120名ほどの兄弟たちが集まっていた。また、主の母マリヤと女たち、主の兄弟たちと心をあわせて祈っていたのです。彼らは、主イエス様の約束を持ち望んでいました。

「五旬節」とは、50日目の祭日という意味です。大麦の初穂の束をささげる日から数えて50日目に行われたことから、「ペンテコステ」とも言われています。「七週の祭り」または「刈り入れの祭り」とも呼ばれています。

この祭は3大祭の一つとして守られていました。当時エルサレムでは、大祭司や祭司長たちによって、「過越の祭り」の後の第1日曜日から50日目に祝いを行なっていました。よって、主イエス様がよみがえられてから50日目に聖霊が降られたことになるのです。

多くの裕福なユダヤ人は、「過越の祭」をエルサレム市内で過ごし、またこの「五旬節の祭」を終えてから、それぞれ自分の国に帰って行くことが習わしでした。それゆえ五旬節には、まだ多くの者が残っていました。

そして、このユダヤ人たちは、50日前に起きた、「ナザレのイエスの十字架刑」の時には、すでにエルサレム市内にいたのです。彼らは群衆化して、「十字架につけろ、十字架につけろ、除け。」と叫んだのです。

さて主は、最後の晩餐の時に、12使徒に次の約束をなされました。それは、「もう一人の助け主」を、父なる神様が与えて下さると言う約束です。そして、二つ目は、「その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世の誤りを明らかにして下さる。」と言う約束です。

その日、聖霊は轟音と共に降られ、その物音を聞いて、集まって来た大ぜいのユダヤの人々に、ペテロの説教を通して、主イエスを十字架につけた罪を示されました。そして悔い改める心を起こさせ、救いに導かれ、何とその日には、3,000人のユダヤ人が兄弟に加えられたのです。聖霊は、罪を示されるのです。聖霊は主イエス様を証しされるのです。》

◎お知らせ

※次回第一礼拝は、6月13日(日)で通常通り教会にて行ないます。夜の第二礼拝はありません。第二礼拝は、6月21日(日)から行ないます。また聖書の学びと祈り会は、6月10日(水)18:15から、教会にて行ないます。